

タカマタギ・雪洞泊 2015/02/28-03/01

メンバー：落合（CL）, 斎藤（SL）, 平川（食担）, 萩原（ミソジ）

雪山での生活技術向上を図ろうと雪洞に泊まってみたいと思っていた、しかし山麓での雪洞訓練では何か味気ない気がしてどうせなら山頂を目指す過程の中でチャレンジした方が価値がありそうだ。

しかし今回はメンバーの中で雪洞泊経験者はいないのですべてが自己流である。。

場所は上越国境・谷川連峰から程近いタカマタギ（1,529m）、夏道は無いので積雪期限定の山であるがアプローチもよく雪洞泊縦走をするには最適で、上越好きのメンバーの思考にもピッタリだ。

前夜は土樽駅でSBの予定が毛渡橋から先は除雪しておらず4WDでも突破出来ないという想定外の出来事が発生、手前の越後中里駅でSBとなった。当日の朝再び土樽駅に向かったら早朝に除雪が入っており一安心。

◆2/28（土） 曇り時々雪のち晴れ

土樽駅 6:45 — 1,300m 雪洞地点 13:15

土樽駅から毛渡橋を渡り関越道・上越線を潜り尾根に取りつくが登りの途中地形の変化におかしいと気づく、どうやら予定していたルートの1本手前の尾根に乗ってしまった。

取りつきで鉄塔と高架線があるという目印で地図読みの基本であるコンパスもあてず安易に入ってしまった、前衛の棒立山で合流する尾根なので特に問題は無かったが、間違うわけが無いという思い込みや慢心さが道迷いの原因になると深く反省。。



ラッセルは深い所でも膝程度、下地が絞まっているので比較的歩きやすく順調に高度を上げる。

11時頃から本日の宿探しに入る、標高1,000~1,250m 地点は‘優良物件’が目白押しだったが、時間も早く天気も急速に回復していったので先の状況を偵察しながら進む。



森林限界を超えたたら景色が一変、棒立山・タカマタギへは素晴らしい雪稜となる。

左右に大きなクラックが開いており上部は踏み抜きに十分注意しながら慎重に進む、中間部はヤブと岩のミックスで奮闘しながらなかなか面白いが視界不良時は要注意だ。

ワカンからアイゼン・ピッケルに装備を変えて棒立山の支尾根に入る、雪洞作りを考えて本日の行動はここまでとし少し下降して1,300m付近を雪洞地に決めた。

雪洞は凹状で左右二つからそれぞれ掘り進み横に繋ぎ、2時間30分で完成。

初めての雪洞作りで感じたことはたくさんあったが、中で安定した体制で作業出来るまでが大変だった。雪の切り出しはスノーソーとシャベルでブロック状にすると体力の消耗も少なく効率がよい。

雪の排出時や出入口の開閉、結露が気になるなら天井やグランドシートの代わりなどツェルトは大いに活用したい。膝を付いたり横になつたりの作業が長くなるだけに下半身が結構濡れる、手袋はやはりテムレスやダイロープなどの工業用ゴム手袋が便利だった。

最終的にはいちばん早く確実に作る方法は雪洞に適した斜面（雪庇）を見つけることに尽きる。



谷川連峰の主脈にも勝るとも劣らない棒立山～タカマタギ南東面

夜はペミカンの概念を覆した平川シェフのシーフード・ペミカンに舌鼓を打ち、ありったけの酒を飲みほすつもりだったが荷上げしそうで結局持ち帰る羽目になった。

夜は玄関から岩原スキー場のナイターや関越道の夜景がキレイと言うより毒々しい感じがしたが、山中雪洞で泊まっている我々の近くではスキーを楽しむ人や高速を走ってる車がみえるなど不思議な気分だった。



棒立山直下の偵察（左）と、雪洞内部の様子（右）

◆3/1（日） 曇りのち小雨（稜線は風雪）

雪洞地 7:40 - 土樽駅 10:10

予定では軽荷でタカマタギを目指すつもりだったが、朝雪洞を出たら稜線は視界不良で風雪の荒れ模様。

季節の変わり目の好天は気まぐれで長続きしない、昼には崩れる予報だったので午前中のうちに早々と下山した。

今回歩いた尾根は結果的にはルート・ミスだったが、支尾根にも実は面白いルートがあるという収穫もあり、反省は次回に生かして行きたい。

アプローチがよいとは言え、厳冬期はタカマタギでも一筋縄ではいかない。日程が許せば日白山～平標山への縦走なども魅力的な課題と感じた。春にスキーで峰を繋ぐのも気持ちよさそうだ。

雪洞は結局のところ、雪質や斜面など状況によって作り方が変わるので一概に正解は無いと思うが、雪山でのビバーグ・生活技術の一部として覚えておいて損は無いのでいい経験になったと思う。

それぞれ楽しめたようなので、来年もまた雪洞で楽しいお酒を飲みましょう！

（記録：落合）